

武蔵野



立川 武蔵野
本社 江東

武蔵野支局 千180-0006
武蔵野市中町1の13の1 3F
電話 0422(51)3131
FAX 0422(51)3133
musasino@yomiuri.co.jp
都内版編集室

電話03(3217)1465・1466
江東支局 電話03(3631)6116
立川支局 電話042(523)4477
ホームページ
www.yomiuri.co.jp/local/

読者は
Y 0120-4343-81

【広告】読売Palette 03(6272)8027
【折込チラシ】 0120-03-4343
【読売旅行】 03(5550)0666

12月17日(金曜日)
旧 11月14日<赤口>

■あすの暦

通日	351	東京標準	=
月齢	12.8	満潮	4.31
(正午)		干潮	15.27
日出	6.44	月入	9.51
日入	16.30	月出	22.15
月出	15.04		(中潮)
月入	4.46		

羞らいつつ伸びやかな彼の

忌野清志郎(1951~2009年)が作詞作曲した多摩蘭坂は、彼がボーカル・ギターを務めるロックバンド「RCサクセション」の5枚目のアルバム「BLUE」(1981年)に収録されています。シングルカットされたわけではありませんが、多くのファンに親しまれてきた名曲です。多摩蘭坂ともたらん坂とも表記されるご当地では、多くの人々が聖地巡りのように訪れる場所としてよく知られています。

文人の 武蔵野

坂の途中 哀調ロック

黒井千次と忌野清志郎



映画では、忌野清志郎が作詞作曲した楽曲が流れる場面もある(映画「たたらん坂」から)

歌声には哀調が漂います。その言葉は繊細でおもねらず、わかりやすい言葉でファンキーに迫ってきます。「エリ」のために 忌野清志郎詩集で「多摩蘭坂」をあらためて詩として読むと「中途半端」「無口」「苦手」というイメージを背負うほどの佇まいが目につきます。いい事はかりはありやしないという感じが坂の途中の借り

黒井さんは高田寺生まれの太久保、中野育ち。清志郎は中野生まれの国分寺、国立育ち。松本清張が記憶の眠る場所として描いた立川の米軍ハウスでも暮らしました。二人は共に、自身の故郷を武蔵野と認める言葉を残し、作品の舞台としました。そして、表現活動を通じて含塞に満ちたアンガージュマン(自ら社会とかかわる生き方)を展開し

暮らしぶりにふさわしく、またそこでお月さまにキスをねだる情景からは、堪らんというほやきや多摩の蘭の色香が匂い立ちもします。

黒井千次さん(1932年~)は、坂の名の由来を探る小説「たたらん坂」の中で、清志郎の「多摩蘭坂」を引用しています。自身より20歳近く若いミュージシャンを同志と感じ、文学的にも啓発されたのではないでしょうか。

東京栄養専門学校
栄養士
[昼/2年・男女]
大学・短期大学卒及び社会人の

おすすめの本
ひんし 双六問屋

「瀨死の双六問屋」(忌野清志郎)

一般に、著作物には理路整然と語ることが求められますが、双六問屋に住む男が自由に紡ぐこの絵文集は違います。筋道などには目もくれず、楽しくわかりやすくドキッとする詩語が散らばっています。忌野清志郎のレコード評、町田康と角田光代が寄せる解説もまた嬉しいのです。

たのです。
(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)

瀨死の双六問屋
忌野清志郎 著
ひんし 双六問屋
ひんし 双六問屋
ひんし 双六問屋

(小学館文庫)